

平成 30 年度 長期留学報告

所属・職名 国際学部 教授
氏 名 佐藤 明彦

留学先 英 国 The University of Essex

目的 日本人英語学習者が困難とする英語音素の認識

期間 平成 30 年 3 月 29 日～平成 31 年 3 月 30 日

※2 年以内に本学機関誌、もしくは学会誌等に研究成果を発表する。



平成30年度 長期留学報告

国際学部 佐藤 明彦

留学国：英国（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国）

- 首都：ロンドン
- 人口：約6,644万人
- 面積：244,820km²（日本の約2/3）
- 公用語：英語、ウェールズ語（ウェールズに住む人の一部）、その他
- 国王：エリザベス2世（1952年～）
- 首相：テリーザ・メイ 保守党（2016年～2019年6月）
ボリス・ジョンソン 保守党（2019年7月～）
- 政治：立憲君主制・議院内閣制
- 通貨：ポンド、ペンス、その他（スコットランド、北アイルランドの独自通貨）

留学都市：コルチェスター（英国南東部）

- 地域：イングランド
- 人口：約11万人
- はじまり：紀元43年、ローマ軍が征服した地
- 名所：コルチェスター城（11世紀にノルマン人が建設）
- 大学：Essex大学：Wivenhoe公園内のコルチェスターキャンパスは、広大な土地に湖や緑の丘などが広がる自然豊かな環境である

大学：Essex大学

- 名称：The University of Essex
- 設立：1964年
- 学生数：約12,000人（うち大学院生約3割）
- 留学生比率：約3.5割
- 教員数：約700人
- 職員数：約1,100人



自然豊かなキャンパス

学問

- ビジネス分野：
会計学、財政学、経営学、銀行学、マーケティング、法学など
- 科学分野：
生物医化学、生物工学、電子工学、スポーツ科学など
- 社会分野：
政治学、社会学、国際関係学、英語学、言語学、人権など
- 人文分野：
文学、哲学、教養学、歴史学、映画学、美術史、演劇など

所属学部

- 言語・言語学学部
(Department of Language and Linguistics)

言語に関する学問が幅広く学べる学部であり、言語学分野（統語論、形態論、音韻論、意味論、語用論など）の専門家が揃った学部である。国内外からの招聘スピーカーによる講演が定期的に行われ、最新の言語研究に触れることができる。また、TESOL（英語教授法）分野の研究者も多く、英語教員養成にも力を入れている。

- 教員数：40人
- 職員数：6人

担当教員

Dr Wyn Johnson

1983年よりEssex大学言語・言語学学部の教員として音韻論を研究、Master/Ph.D.課程の学生を指導している。主な著書は、*A Course in Phonology* (1999, Blackwell Publishing)、*Patterns in Child Phonology* (2010, Edinburgh University Press) など。



Dr Johnson
(右から2人目) の
研究室にて

担当教員

Dr Rebecca Clift

会話分析の研究者として Cambridge大学、East Anglia大学で教え、現在は Essex大学言語・言語学学部で Master/ Ph.D.課程の学生を指導している。主な著書は、*Conversation Analysis: Cambridge Textbooks in Linguistics* (2007, Cambridge University Press) など。

教員交流

- Dr Christina Gkonou : Essex大学言語・言語学学部教員
- Dr Yuni Kim : Essex大学言語・言語学学部教員
- Dr Nancy Kula : Essex大学言語・言語学学部教員
- Dr Peter Patrick : Essex大学言語・言語学学部教員
- Mr Philip Schofield : Essex大学言語・言語学学部教員

研究グループ同僚

- Dr Simona Bora : 言語学研究者
- Ms Amanda Cole : 博士課程学生
- Ms Julia Heimann : 博士課程学生
- Ms Renata Lins : 修士課程学生
- Dr Jane McDonnell : 言語学研究者
- Mr Alrohili Mohammad : 博士課程学生
- Dr Kosin Panyaatisin : Silpakorn University 教員
- Dr Wangchuk Rinzin : ネパール教育省役員
- Ms Siam Rouabeh : 博士課程学生



Dr Panyaatisin と
キャンパスにて

定期的活動

- 担当教員による Tutorial（研究指導）
- 研究論文作成
- キャンパス内図書館で参考文献を収集
- Phonology Group（音韻論研究会）に参加
- 招聘スピーカーの講演聴講
- 研究に活用できるパソコンソフト講習会に参加
- 研究グループ同僚との情報交換
- 日本語指導ボランティア



キャンパス内図書館にて

研究成果 Conference Presentation

- The Difficult English Vowel Phonemes for Japanese Learners of English in Minimal Pairs

(2018) The 13th LangUE, Colchester, The United Kingdom.

- The Effect of Minimal Pair Practice with IPA Symbols on Japanese Learners' Recognition of English Vowel Phonemes

(2019) FLEAT 7, Tokyo, Japan.

研究成果 Research Paper

- Japanese University Students' Understanding of the International Phonetic Alphabet with Focus on English Vowel Phonemes
in *Tsuru Studies in English Linguistics and Literature*, Number 47, pp. 92-123.

(2019) Tsuru University Association of English Literature,
Yamanashi, Japan.

総括

- 英国の研究者は分野に特化しており、研究に対して集中していると感じた。
- キャンパス内図書館には研究（言語学）に関する貴重な書籍が揃っており、参考文献の収集に大変便利であった。
- 24時間使える Study Room があり、学生に論文を書かせる環境が整っていた。
- 研究に活用できるパソコンソフト以外に Adobe などの実用的なソフトの講習会が開催された。
- 新しく学部のビルを建設していたが、留学生を広く受け入れる姿勢がうかがえた。
- 日本人留学生数は一時期より減少していると感じたが、一方、増えていると思えるのは中国人留学生だった。
- 英国での学位取得の複雑なプロセスを概観することができた。
- 研究グループ同僚との交流はとても有益で、研究に関する様々な議論をすることができた。
- 研究を追求するためには多くの時間を費やさなければならないということを実感することができた。

おわりに

2018年度に留学させていただき、自分を見つめ直す機会と、研究に集中する時間を持つことができました。現地に居たからこそ気づけた理解や知識が、貴重な財産となりました。

留学を快諾し「がんばってきてください」と送り出してくれた学部の皆さまと、拓殖大学のサポートに心より感謝いたします。今後はこの経験を活かし、大学教育に還元できるよう精進します。



Essex大学の
個人デスクにて